

トドマツ天然更新技術現地検討会 報告

期日 令和元年 11 月 8 日（金）

場所 北海道川上郡標茶町 根釧西部森林管理署 295 林班は小班

内容

森林総合研究所北海道支所が実施した交付金プロジェクト「トドマツ人工林主伐に対応した低コスト天然更新施業・管理システムの開発」（H27～30）の成果橋渡しの一環として、プロジェクトの中で北海道森林管理局と共同でトドマツの天然更新を活用した施業技術に関する研究を行った標茶国有林（根釧西部森林管理署）295 林班は小班において、実際に試験地での施業後の状況を見ながら、研究担当者がこれまでに得られた成果について説明し、参加者で意見交換を行った。

プロジェクトの第 4 期中長期計画成果冊子 23「トドマツ人工林主伐後の更新技術 — 天然更新の活用でコスト低減をめざす—」および追加資料を活用しつつ、試験プロットや対照区でのトドマツ更新状況を見ながら、石橋地域研究監がプロジェクトおよび試験地の概要、北尾植物土壌系研究グループ長がトドマツ人工林皆伐後の前生稚樹への光阻害の実証研究および保残木の量と稚樹生存率から得られた施業モデル、佐々木研究専門員が作業道配置などの考慮も含めた施業体系のあり方について解説し、質疑応答を行った。

現場のトドマツ更新稚樹には分布の偏り、母樹群からの位置による成長の違いなどが観察され、保残木のほか斜度や斜面方位による生存率の違い、現在稚樹本数が少ない部分の保育にも留意した将来の機械収穫の作業道配置、施業モデルなどの研究成果を国有林の施業マニュアル等に生かすための考慮などについて、活発な議論が行われた。



石橋地域研究監によるプロジェクト概要説明



トドマツ林内対照区の前生稚樹



石橋地域研究監による皆伐試験区の説明



北尾グループ長によるトドマツ稚樹光阻害の説明



佐々木研究専門員による施業体系の方向性に関する説明



石橋北海道森林管理局計画保全部長の挨拶とコメント